

心理援助と教育

1. 教育を考える一言

教育を実施する時に、生徒の学力向上を重視することだけではなく、心理的な悩みや問題も重視すべきです。そのうえ、適当な援助サービスをすることもかなり重要な地位を占めています。

2. 背景

時々、高等学校時代のあることを思い出します。中学校時代から、私は少し強迫神経症があります。本棚に置いた本が垂直でないだけで、いらいらして、何度も置きなおしてしまいます。どうしてもそれを乗り越えられず、かなりの時間を無駄に使ったように思います。両親に心配かけたくないため、ずっと隠していました。友達に相談しても適切な援助はもらえませんでした。

そのまま悩んでいるうちに、高等学校に入りました。そこで心理の授業を担当する先生と出会い、悩みを相談しました。そして、月一回の相談計画を作っていただき、援助サービスを受けました。何ヶ月もの努力の末、やっと乗り越えました。

また、高等学校時代のある先輩は、成績は非常に良いのですが、試験の時には怖くて怖くて、字を書けないほど手が震えてしまいます。そのゆえ、大学の入学試験に何度も挑戦しましたが、理想の成績が取れず、結局、その先輩は志望の大学に入れませんでした。

3. 考察

子どもたちは、勉強する上で、多重多様なストレスや心理的問題に囲まれています。そのような心理的な問題を解決する方法について、教育を実施する時には検討されなければならないと思います。

私自身が経験した上の二つの事例からも、心理的援助サービスの重要性が分かります。学校生活、あるいは学習の場面の中で、ストレスや心理的な悩みがたまると、大きな問題になる可能性が高まります。二つの事例を対比すると、援助をもらった私は努力して乗り越えられましたが、一方、先輩はそのまま問題解決できなかったのです。心理的援助によって、私と先輩の辿った道は大きく分かれました。

子どもたちは、かならずしも悩みや問題を乗り越える方法を知っているわけではありません。同じ年の子ども同士、あるいは専門的な知識のない保護者や先生たちも、適切な援助ができるとは限らないのです。専門家（スクールカウンセラー、心理授業を担当する先生など）の援助がいかに重要かが分かります。

私は高校時代の心理の授業を担当する先生に今も感謝しています。あの時の私のように悩みを持つ子どもへの援助は、その子の人生を変えることにつながるかもしれません。